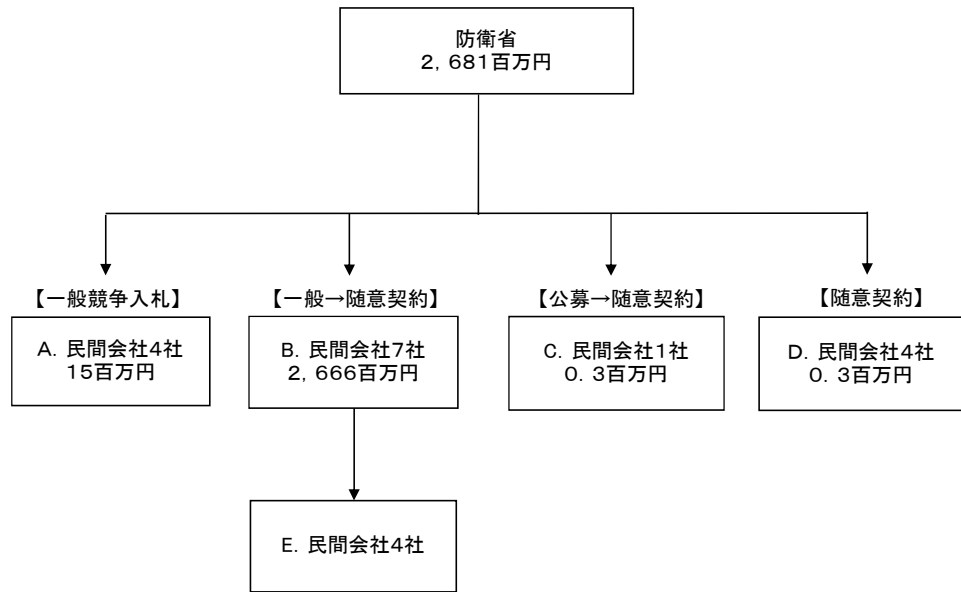


平成24年行政事業レビューシート (防衛省)

事業名	96式多目的誘導弾システム		担当部局庁	経理装備局、防衛政策局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成8年度		担当課室	システム装備課、防衛計画課		システム装備課長 高橋直人 防衛計画課長 青柳 肇	
会計区分	一般会計		施策名	装備品等の取得改革等 (装備品等の整備)			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計画、 通知等	平成23年度以降に係る防衛計画の大綱 (平成22年12月17日 安全保障会議決定・閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	厳しさを増す安全保障環境のもと、防衛力の整備を着実に推進し、主に沿岸部における敵舟艇・戦車等への即応・実効的対処能力の向上等を図ることにより、我が国の平和と国民生活の安全・安心を確保するため、陸上自衛隊に96式多目的誘導弾システムを整備する。						
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	防衛計画の大綱等に基づき平成8年度から96式多目的誘導弾システムの調達を開始し、平成23年度末までに32セットの整備が完了。平成24年度までの計37セット(3個隊+教育所要)で地上装置は調達を終了し、今後は演習弾の取得が主となる。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予 算 の 状 況	当初予算	2,421	2,573	2,734	2,198	2,556
		補正予算	0	0	0	0	
		繰越し等	0	0	0	0	
		計	2,421	2,573	2,734	2,198	2,556
	執行額	2,415	2,630	2,681			
	執行率 (%)	99.8%	102.2%	98.1%			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	23年度は北部方面対舟艇対戦車隊に96式多目的誘導弾システム1セットを整備	成果実績	整備数	1セット	1セット	1セット	目標値 (年度) 37セット (26年度)
		達成度	%	81%	84%	86%	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標 23年度は第4対舟艇対戦車隊に整備予定の1セットを調達	活動実績 (当初見込み)	調達数	1セット	1セット	1セット	24年度活動見込 3セット (1セット) (1セット) (3セット)
		算出根拠	「単位当りコスト=2,681,473,677/1」				
単位当たり コスト	2,681,473,677(円/1セット)						
平成 24 ・ 25 年度 予算 内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	物品購入費	2,198	2,556	集中調達による構成品数量増等に伴う増額			
	計	2,198	2,556				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	主契約企業とその下請企業が製造する以外の装置(車体部、通信機器等)を官給化しており、GC、I、Pの重複を局限しコストを低減している。 注) GC,I,P(General Cost, Interest, Profit) 一般管理費及び販売費、利子、利益
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	96式多目的誘導弾システムは、部隊における各種訓練で計画的に活用されている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	1 必要性	事業の目的から、96式多目的誘導弾システムの整備を推進することは、我が国への侵攻に対応するために必要であり、防衛省で実施することが適切である。	
	2 効率性	調達については、主契約企業(プライム企業)が下請企業(ベンダー企業)から部品を購入した場合に発生するGC、I、Pの重複を局限するため、官給品の支給を従前より実施しており、その結果、コストの低減が図られている。(23年度予算で約4百万円を低減) また、24年度予算では24年度以降計画していた計3セットを集中調達することによるコスト低減を実施。(低減額約11億円)	
	3 有効性	96式多目的誘導弾システムを取得することで、主に沿岸部における敵舟艇・戦車等の侵攻への対処に有効な防衛力の整備が着実に実施でき、各種事態等への対処能力向上に有効である。	
	4 総合評価	当事業により各種事態等への対処能力を向上させることで、我が国の平和と独立、国民生活の安全・安心を確保することが可能となることから、今後も予算・執行の効率化に努めつつ、事業を継続する。	
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	他の装備による代替可能性や整備計画など柔軟な導入に努めるべき。集中調達は必要だが、それがかえって非効率になっていないかチェックすべき。必要以上の一般競争の導入には注意を要する。調達にあたり原価削減方法を工夫すべき。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	<ul style="list-style-type: none"> ・96式多目的誘導弾システムは、主に沿岸部における敵舟艇・戦車等の侵攻に有効に対処するため防衛計画の大綱等に基づき整備するものであり、他の装備で代替することは、それぞれの装備の目的や性能の違いがあることから困難である。 ・集中調達については、工期の短縮や材料調達のスケールメリットによる経費削減効果といったメリットがある一方で、集中調達による予算枠の圧迫、集中調達後の調達空白期間の製造ライン維持費の発生や防衛力整備計画変更のリスクといったデメリットが考えられる。本システムの地上装置は24年度で最終調達であるが、本事業に限らず25年度以降の装備品調達の要求に際しては、調達内容が有効かつ、効率的なものとなっているかをチェックし、最終調達に係わらず、引き続き集中調達を推進していく。 ・「契約金額が少額の場合」や「契約の性質上、他の企業の参入の可能性が極めて低く、実際に入札公告しても応札する企業が1社しかない場合」には、一般競争入札にかける効果を考慮し、かえって非効率と認められる場合には、随意契約によるものとする。 ・本システムについて、これまで実施してきた官給品の支給による取得価格の抑制に加え、24年度において実施する集中調達による経費削減効果を予定価格に反映し、契約金額に反映させる。 (縮減額 約11億円)		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0035	平成23年行政事業レビュー	0032

※平成23年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A. トヨタ自動車(株)			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品購入費	多目的誘導弾用車両	13			
計		13	計		0
B. 川崎重工業(株)			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品購入費	多目的誘導弾システム	2,643			
	(内訳)				
	製造に伴って発生する部品等の材料費				
	製造に伴って発生する部品等の労務費				
	製造に伴って発生する経費				
	※ 契約は、一括のため費目毎の金額の記載は困難				
計		2,643	計		0
C. トヨタ部品東京共販(株)			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品購入費	インサートタイヤ	0.3			
計		0.3	計		0
D. (株)愛日			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品購入費	自動電話機	0.2			
計		0.2	計		0

支出先上位10者リスト

A. 一般競争

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	トヨタ自動車(株)	多目的誘導弾用車両 契約件数2件	13	1	99.9%
2	太陽工業(株)	偽装網	1	1	99.9%
3	ブリヂストン・タイヤ・セールス関東(株)	自動車用特殊タイヤ	0.4	1	100%
4	明治産業(株)	小型トラック用タイヤチェーン	0.05	2	94.2%

B. 一般競争→随意契約

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	川崎重工業(株)	96式多目的誘導弾の製造等 契約件数4件	2,643	1	100%
2	日本電気(株)	車両無線機の製造 契約件数4件	16	1	99.9%
3	東レ(株)	偽装網	4	1	100%
4	(株)ネットコムセック	符号変換器の製造等 契約件数3件	1	1	99.4%
5	電気興業(株)	車両無線機空中線の製造	0.5	2	81.4%
6	神田通信工業(株)	野外音響機器の製造 契約件数3件	0.3	1	100%
7	キーコム(株)	空中線	0.2	1	100%

C. 公募→随意契約

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	トヨタ部品東京共販(株)	インサートタイヤ	0.3	—	100%

D. 随意契約

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)愛日	自動電話機	0.2	—	100%
2	(株)オーシーシ	野外用通信線	0.03	—	100%
3	(株)エムアイ工業	巻線機	0.01	—	100%
4	(株)さくら商事	通信用絡車	0.01	—	93.8%

E. 下請け会社

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	中国化薬(株)	誘導弾組立	—	—	—
2	日本電気(株)	シーカ部及び光電変換器の製作	—	—	—
3	ダイキン工業(株)	弾頭及び発煙弾頭の製作	—	—	—
4	(株)フジクラ	光ファイバリールの製作	—	—	—